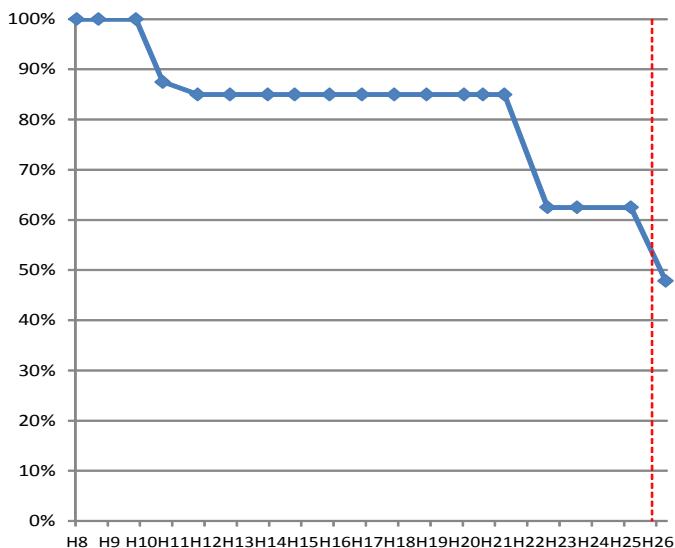


樹種名	ホオノキ	
科 目	モクレン科	
学 名	<i>Magnolia obovata</i>	
分 布	日本全土、国外では中国の山地に分布する。	
樹木特性	<p>陽樹であり適潤で地味肥沃な深層土を好み。谷あいまたはこれに続く斜面、中腹の緩傾斜地に自生し成長は早い。</p> <p>伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約20 cm前後で萌芽本数は30本以上である。</p> <p>生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が100年以上と推定され、埋土種子は休眠し、寿命も長い。</p>	
用 途	公園樹、街路樹、建築・器具・楽器・彫刻・船舶材に、樹皮は薬用に利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	245本／0.06ha (約3,500本／ha)	
特 徴	<p>【樹 形】 ホオノキ（朴の木）はモクレン科の落葉高木であり、樹高30m、直径1m以上になるものもある。</p> <p>樹皮は灰白色、きめが細かく、裂け目を生じない。葉は大きく、長さ20cm以上、時に40cmにもなり、葉の大きさではトチノキに並ぶ。葉柄は3~4cmと短い。葉の形は倒卵状橍円形、やや白っぽい明るい緑で、裏面は白い粉を吹く。植物の葉、茎の一つの節に1枚ずつ方向をたがえてつき、枝先に多数が束のようになって生じ、輪生状に見える。花は白色または淡黄色で、大型で大人の掌に余る輪生状の葉の真ん中から顔を出し、真上に向かって6月ごろ咲き、芳香がある。葉は芳香があり、殺菌作用があるため食材を包んで、朴葉寿司、朴葉餅などに使われる。</p>	
試験地での様子	普通苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。植栽から18年経過した現在の平均樹高は9m程度にまで成長している。幹の通直性は高い。	
被 害	植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。 (延べ駆除本数：4本)	

ホオノキ 現存率



【現存率】

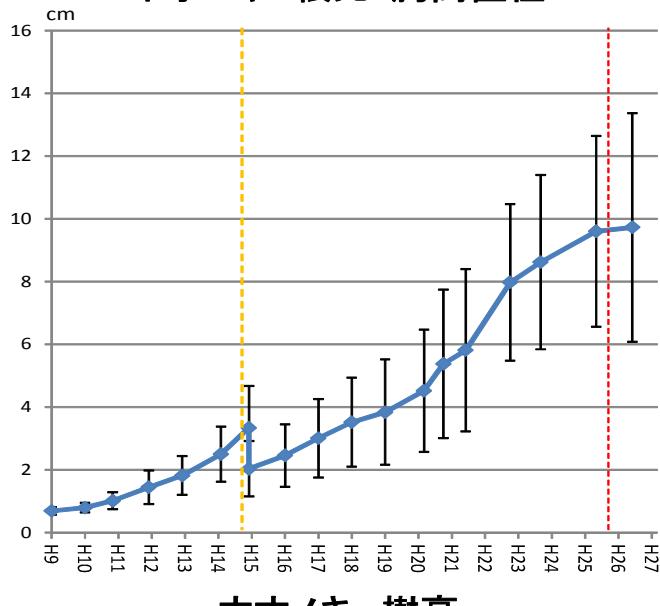
植栽後よりコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害により枯死が発生している。
平成 22 年にも枯死が発生している。

林内の照度調整を図るため、平成 21 年、22 年、24 年度にわたり 3 回の本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 47.8% であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ホオノキ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

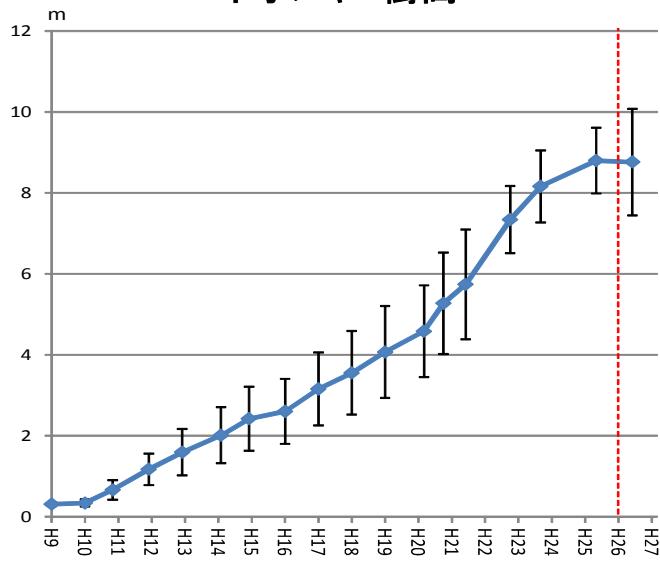
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 9.73 cm であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ホオノキ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 8.77m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



《プチ情報》

材質は良質の散孔材で軽くて軟らかく緻密である。耐朽・保存性は低いが切削、加工、割裂、乾燥は容易で表面仕上げも良好で耐火性もある。

本種は強い他感作用（アレロパシー）を示すことが知られている。本種の樹冠下では、他の植物が生えることは少ない。これは、落葉や根などから分泌される他感物質により種子発芽や、発芽した植物の生育が強く抑制されるためである。そのため、自生地の樹冠下では下草が少なく落葉の堆積が目立つことが知られている。